

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都多摩市鶴牧 1 丁目 2 5 - 2 ヴィーク ステージ多摩センター 2 階
園名	キッズサポート多摩 めぐみクラブ

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

乳児期における体の発達について

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

0 歳児はずりばいやハイハイ、つかまり立ちなど発達に応じた多様な動きを経験する時期である。くぐる、のぞく、つかまるなどの動作、全身の筋力やバランスの発達について具体的に理解を深めるためにテーマとした。

### 2. 活動スケジュール

7 月 2 4 日 室内の中央に肋木トンネルを設置

子どもが自由に遊ぶ様子を保育者が見守る

7 月 ・風船などを用意し、どんな反応を示すか見守る

8 月 ・手が届く場所に安全な玩具を用意する。トンネルの中でどのように遊ぶか見守る。

・保育者も一緒にくぐろうとしたり、周りをハイハイしてみたり、反対側から顔を覗かせ「おいで」と声を掛けてみたりと一緒に遊ぶ。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・肋木トンネル 十分に体を動かせるよう広いスペースを設け室内の中央に設置した。  
風船やシフォン布を用意した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・子どもが自由に肋木トンネルに近付き、くぐる、のぞく、つかまるなどを自分のペースで楽しむ時間を設ける。
- ・保育者は無理に誘導せず、子どもの動きや興味を尊重しながら必要に応じて声を掛けたり安全を確保したりする。

##### <活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり>

子どもの姿…トンネルを見つけると興味津々に近付き、手で触ったり中を覗き込んだりしていた。

ずりばいやハイハイでぐり抜ける子、半分まで進んで座ってみる子がいた。

トンネルの隙間から顔を覗かせて保育者や友だちと目を合わせ声を出して笑う子がいた。

近くにあった玩具を手に取り、トンネルとすれて「コンコン」と音になることに気が付き、くり返し楽しんでいた。

1 月頃には全ての児が歩けるようになり、数人でトンネルの周りをグルグルと回って遊ぶ姿が見られるようになった。

子ども同士の関わり…片側から入った子が、トンネルの中で顔を合わせて笑いあう姿があった。

隙間から顔を出している子に、別の子が手を伸ばしてふれるなど簡単なやり取りが生まれていた。

トンネルの中だけでなく周りをハイハイや歩いて友だちの後を追う姿があった。

保育者との関わり…反対側から顔を覗かせ、「おいで」「ばあ」などと声を掛けると一緒にいないいないばあをしたり声を出して笑っていた。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

肋木トンネルは子どもたちの発達運動に合わせて多様な遊び方ができ、全身運動やバランス感覚を育む効果があった。また隙間から顔を覗かせてみることで友だちや保育者とのやり取りが生まれ、コミュニケーションの芽生えにもつながった。

さらに子どもたちの発達段階に応じて自然に体を動かす機会を提供できると実感した。

くぐる、のぞく、つかまるといった動作の中で子どもたちは自分なりの遊び方を見つけ、何度も繰り返し挑戦していた。その姿から、遊びの中の「できた」という達成感が次の行動への意欲のつながっていると気付いた。また隙間から顔を覗かせて「ばあ」と笑い合う場面では、まだ言葉が十分でない0歳児でも表情や動作を通して相手とやり取りを楽しむ力が育っていくことを感じた。保育者が近くで安心感を与えながら見守ることで子ども同士の自然な関わりが増えることも学んだ。